



「こんにちは 市長です」

4月15日号

鈴木武蔵選手のお母さんが『ムサシと武蔵（鈴木武蔵著・徳間書店刊）を学校に寄贈すると言って市役所に来てくれた。3月の下旬のこと。鈴木選手は、今はベルギーで活躍しているプロサッカー選手である。市役所で2度ほどお会いした。背は高く顔は小さく、現代流の好青年である。「サッカーで飯が食べなくなってもモデルでも売れる」と言ったことがある。まだまだこれから、という時のことだ。ジャマイカで生まれ、日本で育った。〈僕の肌はなぜ黒いのか？〉〈自分は日本人なのか？〉と本の帯にはある。グッと歯を食いしばって、指を握りしめて行き場のない心が文脈に漂っている。そして日本代表のフォワード、ストライカーに成長した。

おじいちゃんに連れられて行った床屋で〈「この子の髪の毛のくるくる具合はすごいねえ。こんなにくるくるだと、料金は高くなりますよ」〉。この言葉は心の奥底まで突き刺さったという。〈僕の中から見える世界は、ジャマイカで生活していたときから変わらない。（中略）僕が僕であることには変わらない。なのに、ジャマイカるときにはまったくなかった人の視線や、自分に対する否定的な言葉によって、僕は自分自身に大きな疑問を抱くようになった。〉僕は黒いからだめなんだ、白になりたいという。読んでいて、涙が出てくる。プロになってからも困っていた散髪だが、友人に背中を押されて入った美容院での新しいヘアスタイルに、仲間から〈「やっぱりハーフは違うな、かっこいいわ、その髪型」〉。この日を境に、ありのままの自分を受け入れる大きなきっかけになった。

『ムサシと武蔵』は多くのことを考えさせられる。ぜひ、本屋さんでお買い求めください。（3/31 記）